

庭木に利用する樹種の特徴と管理

21 ムクゲ

日本樹木医会富山県支部
樹木医 西村正史

公園等では、初夏から秋にかけてハイビスカスによく似た花をたくさん咲かせている花木を見かけます。これは夏の代表的な花木で、韓国の国花でもあるムクゲです。今回はこの花木を紹介します。

1 特徴

アオイ科フヨウ属の落葉広葉樹の低木で、高さは3～4mです（写真1）。インド・中国原産で、乾燥にも強く、荒地にも耐えるので、庭木の他、公園や道路の側帯などにも植栽されています。種子もよく稔り、自然に若木が発生します。

花は、5つの花弁とその中心に大きな雌しべとこれに付着した多数の雄しべで構成されており、花の色は淡い紫色のものが多いのですが、白花や八重咲きのものもあります（写真2-4）。

花は朝開き、夕方にはしぼんで、また翌朝開き、一重のもので2～3日、八重の長く咲くもので2週間くらい、一輪の花を楽しむことができます。

2 管理

今年伸びた新しい枝の頂芽に5～6月頃に花芽ができ、7～10月にかけて花が咲きます。そのため、剪定は花が咲いた後の秋から翌年の春にかけて実施すればよいことになります。春に芽が伸び始めてからでも剪定は可能ですが、その場合は4月下旬までに終わらせるようにしてください。

ムクゲは、芽吹く力が強いので刈り込んで形を整えることも可能で、どこで枝を切っても問題はありません。しかし、樹形や全体のバランスを考えながら枝を切ることが大切です。放任でもある程度はまとまった樹形になります。広い庭で、大きさを気にしないのであれば、ほとんど剪定をしないという選択肢もあります。

病害虫には強い花木ですが、アブラムシやハマキムシ類が発生する場合がありますので、その際は浸透性殺虫剤で対応してください。

（写真1-4は、すべて富山県中央植物園で撮影）



写真1 ムクゲの全景



写真3 白いムクゲ



写真2 淡い紫色のムクゲ



写真4 八重咲きのムクゲ